

## 日本医用画像工学会への期待と希望

藤田 広志\*



医用画像工学に関係する大学や企業等の研究者・技術者、あるいは関係する分野の医学者や学生の“人口”は、決して多いとはいえない。特徴は少し異なるとはいえ、類似の学会も存在する。また、工学系の学会の中で、医用画像を取り扱う研究会等も少なからず存在し、どの組織も本学会と同様な悩みを抱えているようだ。そのような中で、本学会をどう活性化させるのかは、なかなか容易なことではない。むしろあまりジタバタせずに、為すがまま為されるがままに身を任せ、いまは為すべきことをやり、静観するときなのかも知れない。

大会を運営し、会員（特に若手や学生）に最新の研究成果を発表する場を提供することは、もっとも重要な学会の任務であろう。その意味では、本学会は十分にその責務を担っている。問題点を挙げるとすれば、もっと医師の参加があり、医側からの率直な意見を聞けるような場になると良いということであろう。例えば、そのために医師の *invited speaker* をセッション毎に採用するのはどうであろうか。大会時に教育講演等々の盛りだくさんの企画があり、若手や学生を中心に、教育的な面も十分に充実しており、それはたいへんに良いのであるが、さらに一会員の立場で要望するならば、参加費がこの規模の工学系の学会（大会）にしてはあまりにも高く、現状の半額以下に設定してほしい点であろう（せめて年会費以下に抑えるべきではないだろうか）。CD の予稿集など Web 上のみでも十分である。

会誌については、解説記事などをはじめ、学

生の初期の教育目的の和文論文、一部の研究領域の成果の和文報告、あるいは特定の目的を持った和文論文などはあっても良いと思うが、医学系では（最近はそれに限らないが）、“和文論文は紙屑”とまで酷くいわれる現実に目を背けることはできない。ただ、国内の各学会が独自に英語論文誌を発行するよりは、例えば、日本放射線技術学会と日本医用物理学会が共同の英文誌を発行しているような形態も、一考に値するのではなからうか。できれば、もっと多くの学会の連合誌にならないものだろうか。

例年、1月に沖縄で医用画像連合フォーラムが開催されるが、このような他学会との連携で開催される大会は、会員にとっては大変にありがたい。今後ともさらに関連する学会との連携を深めていただきたい。できれば、4月の医学放射線関係、あるいは超音波関係（超音波 Week）の連合大会のような取り組みの模索も必要ではなからうか。学会や研究会が多すぎる現状ではあるが、学会の合体などは難しい面があるが、合同開催などで、運営労力、予算、時間など節約して、その時間をもっと研究活動自身に回してはどうであろうか。

このようなご時世でも、医療 CT 技術に関する新しい研究会が昨年末に発足している。スポンサーも充実していると聞く。どうも学会や研究会という組織は、テーマが同じで同好の士の集まりというだけでは、必ずしも十分ではないようである。

取り留めもない駄文になってしまったが、本会の益々の発展を願って筆をおく。

\*岐阜大学大学院医学系研究科知能イメージ情報分野 〒501-1194 岐阜市柳戸 1-1